

SSKA
頸損

KEISON No. 141

目 次

特集 車両改造 自家用車に乗るための工夫	1
2023年度 全国頸髄損傷者連絡会 総会報告	9
第37回 リハ工学カンファレンス in 東京 参加報告	14
4都県合同交流会	15
京都頸髄損傷者連絡会 設立40周年記念式典を終えて	16
ゆいまーるビーチフェス参加報告	17
山本格生さんを偲ぶ会の報告	20
赤尾前会長追悼イベント	21
NPO法人ケアリフォームシステム研究会 第20回全国大会 in 愛知 参加報告	22
四国頸損の集い2023 報告	23
第10回 To be yourself 65歳問題3	24
65歳問題もっと勉強が必要	25
頸損解体新書 2020・調査報告書作成を終えて	26
全国頸髄損傷者連絡会総会・愛媛大会 会場・アクセス・ホテルのご紹介	28
事務局からのお知らせ	30
全国頸損連絡会＆関係団体“年間予定”	31
お役立ち！？	32
報道・情報ピックアップ	33
支部ニュース	34
全国頸髄損傷者連絡会連絡先	35
編集部のページ	36

福祉車両の現状と制度

自分で運転するためには

全国頸髄損傷者連絡会 事務局次長 鈴木 太

はじめに

頸髄損傷者となり、運動機能に障害が残ると以前より移動には困難が生じてしまいます。そこをカバーするために公共交通機関を活用します。公共交通機関に不便を感じる人は、それ以上に自由度の高い自家用車を選択する人も少なくありません。都心部では自家用車を持たない世帯が増えていますが、郊外へ行くほど自家用車の必要性は大きくなります。

頸髄損傷者の自家用車には障害や身体状況に合わせた様々な装置がついた福祉車両を使用することになります。今回は頸髄損傷者が自分で運転する福祉車両の現状と活用できる制度について紹介します。

自動車メーカーの現状

日本車メーカーのほぼ全てから福祉車両（メーカーによって呼び名は様々）が発売されています。ホームページには詳しい説明とともに、様々な装置がついた車両が紹介されています。その中でも下肢障害により、手で運転する装置（以下、手動装置）がついた車両は多くラインナップされています。多くの運転可能な障害者は自動車メーカーから自家用車を購入されています。（頸髄損傷者でもメーカー純正手動装置で運転可能な方もいらっしゃいます）しかし、頸髄損傷者となると障害のレベルが様々でなかなか自動車メーカーから供給されたままの車両では運転できないという話を耳にします。

自家用車の運転装置設置・改造

頸髄損傷運転者の多くは、メーカーから車両を購入し、その後、運転装置の設置を依頼されています。自分に合った車高・サイズ・座席の高さ、色などから車両を選びます。その後、運転装置の選定、ハンドル・乗降時のサポート装備の有無によって、個人にあわせた改造が施されることになります。

福祉車両購入時・購入後のサポート

福祉車両の購入には消費税が非課税となり、市町村の補助金があります。しかし、メーカー購入時に福祉車両として購入する場合は非課税対象だが、車両のみの購入は課税対象の場合もあり、一概に非課税とはいえない。改造も同じで、メーカーから手動装置がついた車両を購入する場合は補助金が使えず、購入後の改造には使えるなどややこしい部分があります。市区町村の福祉窓口での確認が確実な方法になります。

あわせて、購入後に活用できるのは自動車税の減免や免除や有料道路の障害者割引です。障害者等の方のために使用する自動車が減免や免除となり、多くの都道府県で、障害者等級1～4級で減免を受けることが出来ます（都道府県により内容が異なります）。有料道路は身体障害者手帳所有者が、ETC車載器を市区町村の福祉窓口で登録することにより、割引を受けることが出来ます。2023年3月からは知人・レンタカー・タクシーにも割引の範囲が拡大されています。

まとめ

今回は頸髄損傷者が自分で運転するための様々な工夫を施した車両を紹介します。自分の身体状況に合わせた自家用車は行動範囲を広げます。様々な改造を施すことで、移乗しやすく、移乗しなくとも運転が可能な方法があります。

しかし、自家用車を持つということには金銭的な負担が生じます。一般的な車両価格に運転装置や移乗機器装置の金額が追加で必要になります。購入時のサポートは多くはないですが、うまく活用してマイカーライフを楽しんでください。

やっぱり自分で運転したい

車椅子のまま運転できる車を探してみた!!

大阪頸髄損傷連絡会 坂東 由並子

こんにちは。宝塚市在住の坂東由並子です。
20歳の時に交通事故に遭い受傷、頸髄損傷(C6B3)になりました。その後 10 年間の自宅療養を経て、兵庫県立総合リハビリテーションセンターへ入所。リハセンター入所中に自動車免許を取得。

普通自動車(トヨタカルディナ・プリウスα等)を自分で運転できるように手動装置(ブレーキ・アクセルを手だけで操作するもの)・旋回装置(ハンドルを回すために手を固定する装置)等を取り付け、トランスファーBOARDを使用して運転を続けていましたが、肩を痛めたことをきっかけに移乗と車椅子の積み込みが怖くなり、運転する回数も減っていました。



【トランスファーBOARDとシートを使用して移乗】

しかも、自走車椅子を使用し自動車で出かけて頑張って乗り降りしても、外出先での行動が限られます。移乗の回数に限界があつたり現地での坂道で苦労したり…

昔ほど車椅子をガンガンこぐ力も無くなってしましました。でも、我が家は山の上なので車は不可欠…。そこで、車椅子のまま運転できる車はないのかなと思い、ネットや他情報等探しましたが、海外の一人乗りの車や国内では既に販売終了した一人乗り用自動車等は見つけたものの、自分の思うものにはなかなか出会えないでいました。



【小型電気自動車 Kengru】*(注)日本での発売なし

そんな中、車椅子のまま運転できるよう改造されている会社を見つけてすぐに連絡しました。オーナーの方も頸損でした。ご自身で改造された車に乗られており、何度かお話をさせて頂いていた折り「中古車が出ましたよ」と連絡を貰ったので東京へ行き、車椅子と自動車を合わせて調整し(車椅子と自動車を固定するために EZ LOCK というものを設置・車椅子が後ろに下がらないための背もたれ等)、2 度目に伺ったときに試乗。運転は問題なくできたのですが、車椅子で自動車に乗り込む際使用するスロープの傾斜が私には少しきつく感じたり、ワインカーは今まで手元で操作していたのですが、今度の車はヘッドレストで操作するため頭をもたれかけることができないことに違和感を覚えたり…いろいろあったのですが、運転できれば良し!!と思いつき、即購入。





【即購入したトヨタポルテ】

購入後は主に通勤と近所への買い物に利用。年季の入った車だったので揺れがひどくて長距離は厳しく、電動スロープやEZ LOCKの不具合・トラブルも何度かあり、遠くに行くのは危険だな…と判断し、事務所と近くのショッピングモールに行くのに使っていました。この車はあくまでもお試しの購入だったので、運転できる確信が持てればOK。その後すぐに新車の手配を始めました。…が、コロナ禍になり部品不足のため、トヨタに新車を発注してまさかの7か月後に届き、改造をお願いした会社へ納車。その後改造に9か月弱かかりました(泣) 辛抱強く待ちまして、ようやく今月届く予定となりました。



【今月届く予定のトヨタノア】

ポルテは助手席がなく横からスロープが出てきて乗り込んでいたのですが、新車(トヨタノア)は後ろから乗ります。セカンドシートは取り除きサードシートは折り畳みです。スロープがきつい問題は永遠つきまといますし、トラブル時どうしよう…という不安もあるけれど、やはり自分で運転して出かけられるのは助かります。急に動かないといけない時に山の上の我が家はリフトタクシーでしか動けません。これから高齢運転者の枠に入っていくので、安全運転で体調にも気を付けながら運転できればいいな…と思っています。

今後は改造や修理等、近所でもできれば助かりますね。完全な自動運転が実現するのが一番かもですが…

ただ、車に乗れなかったとき電車で動く楽しみも知りました。自分の行きたいところにかなり自由に行けましたし、車では見られない景色を見ることができたので、こちらも楽しみつつ運転も続けていこうと思います。

最後まで読んで頂きありがとうございました。

改造自動車に乗って

京都頸髄損傷連絡会 鳳崎 泰治

私が自動車を運転したのは受傷して2年が経ったころです。交通事故による受傷後のリハビリにおいて、自動車への移乗が退院へのゴールに設定されていました。

現在、乗っている車はホンダオデッセイです。この車を選んだ理由は、低床設計で車椅子から運転席までの高低差が少なく、移乗しやすいからです。さらに、家族の人数や車椅子バスケットをしているので、普段用の車椅子と競技用の車椅子を積むために、座席数やトランクの大きさが丁度良かったからです。



改造している部分は2か所です。ひとつ目は、手動装置（アクセルとブレーキ、指示器やハザードなど）。私の場合は、手前に引くとアクセル、逆に押すとブレーキがかかります。障害の状況によっては、レバーの位置や指示器のスイッチなどの位置や形状は、改造をしている業者に相談するとカスタマイズできるようです（費用は発生することが多いです）。



もうひとつは、ハンドルです。ハンドルは握って回すことができないので、ハンドルにグリップを固定して操作が出来るようにしています。着脱可能になっているのでとても便利です。例えばドライブスルーを利用した時は、商品の受け取り時などはスム

ーズに出来ます。

冒頭にも移乗のことに触れましたが、頸髄損傷者にとっては工夫が必要なところだと思います。私の場合は、特に移乗に失敗して地面に落ちてしまうと自力で車椅子に戻るなどの立て直しができません。いかに安全に車椅子から自動車の座席に乗り移るか、また逆に座席から車椅子に移るかが問題です。

ただ、安全であっても移乗に時間がかかるつてしまふと効率的にも良くなく、褥瘡の心配もあります。また猛暑の夏や極寒の冬は、体温調整のできない私たちにはつらいものです。



こちらが、自作した移乗時のクッションです。中身は発泡スチロールや牛乳のパックなどで作っています。車のドアの形状や車椅子側の形状を加味して手作りで作成しています。

今では笑い話ですが、真夏に人気のない駐車場で車椅子から自動車に移乗中に失敗してしまって、なんとか立て直そうと必死にもがいていました。もがいているうちにズボンがどんどんずれてしまって、

地面に落ちた時には車椅子のブレーキにズボンがひっかかり全部脱げた状態でした。助けていただい方はさぞかしひっくりされたことだと思います(笑)



なんとか自動車に乗り移った後には、乗っていた車椅子の積み込みがあります。折りたたんで、シートを倒して体の上を通過させて後部座席へ積み込みます。積み込みは、車椅子の形状や引き上げるベルトなど細かい部分での工夫が必要です。最近の私の悩みは、車椅子の背もたれを高くしたのですが、積み込み時に自動車の屋根につかえて身動きがとれなくなってしまったことです。

自動車を運転できることで、ひとりの力でどこにでも行けるので気分的にもストレス解消にもなるし、リラックスできることもあります。仕事や買い物や旅行にも便利です。身障者用の駐車スペースが空いていないなど不便なこともありますが、安全運転でこれからも乗り続けたいなあと思っています。

私の車の紹介

匿名

頸髄損傷6番の私が利用している車を紹介します。トヨタのアクア、ウェルキャブシリーズです。車椅子を自動で天井に吊り下げる装置がついた車種です。現在、生産中止となっていましたが、トヨタの純正でオプションのような取り扱いをされていました。価格はアクアと収納機械込みで250万程度。



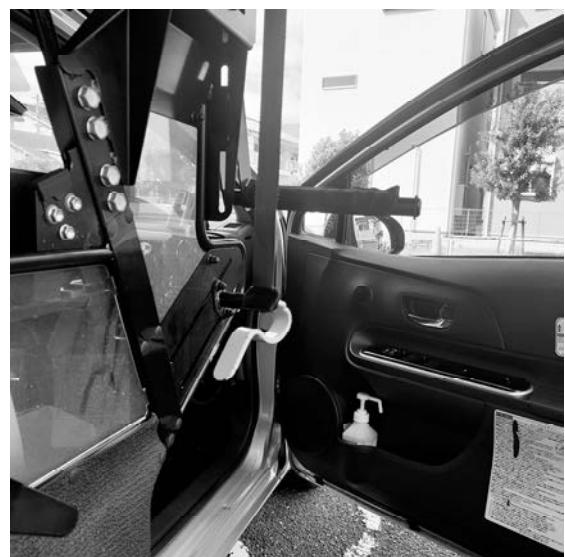
思いました。



[改造したもの]

収納装置

車椅子をフックにかけるだけで、車の上についた収納装置に自動的に積み上げてくれます。これのおかげで車椅子を持ち上げる必要がなくなりました。この機械は、すべての車椅子を積めるわけではなく、大きさと重さの制限があります。一般的な手動車椅子であれば、たいてい大丈夫です。また、簡易電動車椅子も可能です。



[これまでの私]

受傷前から運転免許があり、健常者として6年くらい運転していました。受傷後、入院中にベッドの乗り移りはできたのですが、車の乗り移りはうまくいきませんでした。自宅に帰って、家にあった車を改造しちょっと練習。家族の力をかりながら、なんとか自分一人で出かけられるようになりました。それから、29年くらい運転を続けています。

その頃は、自分で車椅子をたたんで後部座席に積み込んでいました。以来ずっと、そのスタイルで車椅子を積んでしてきました。

この収納装置の利用を始めたのはちょうど4年前。膀胱ろうを増設した時です。車椅子を車に積む際、どうしても管がひつかかるようになりました。ちょうどその頃、知人が車椅子を車の天井から吊り下げる機械を使っていたのを見て、私も使ってみようと

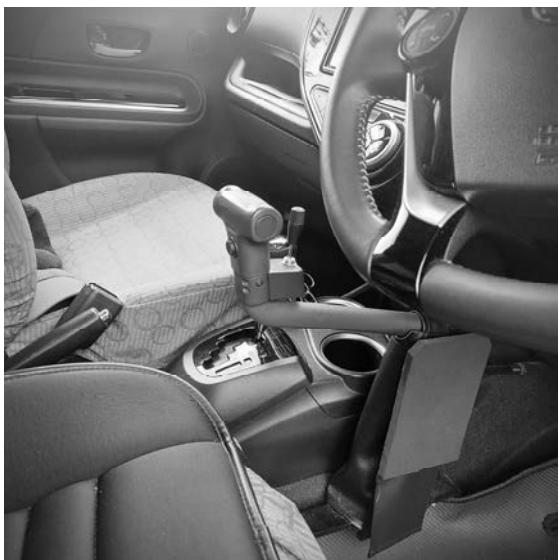


実際、私は電動アシスト車椅子をこの装置で積み込んでいます。この場合、注意が必要でバッテリーを外してからでないと積めません。そこで、自分でバッテリーを外せる工夫をしました。通常、バッテリーを外す時は黄色いボタンを押しながら抜かなくてはなりませんが、ボタンを押さなくても引っ張るだけで抜けるようにしてもらいました。あと、指を引掛けられるように取手にひもをつけました。



手動装置

標準的なものです。20万程度。(ニッシン自動車)



ランスファーボード

車椅子から座席までの距離に合わせて作ってもらいました。とてもしっかりしていて、価値あると思います。トヨタの純正より断然使いやすい。このランスファーボードにしてから一度も落っこちていません。10万円程度。(ニッシン自動車)



座せい止め

一般的なタイプはアクセルの手前に板を取り付けて、足がアクセルにあたらないようにするのですが、私は足を置くスペースが狭くなるのが嫌でした。そこで、アクセルとブレーキを加工して折り曲げられるようにしてもらいました。これだと足があたる

心配はありません。この加工をするには業者に車を送って数日預けなくてはなりません。レッカ一代もかかります。それでも、私は取り付けてもらってよかったですと思っています。10万円程度。(ニッシン自動車)



手形

私は、ハンドルを握ることができないので手形をつけました。義肢業者に私の手の形に合わせて作ってもらいました。(川村義肢)



[使い勝手]

強風

台風など強風の日は機械が飛ばされる可能性があります。実際に台風が直撃したときは、前日の夜から近くの地下のコインパーキングに一晩預けました。

故障

5年くらいこの車を乗っていますが、1度も故障したことはないです。

耐久性

製造実績が少ないので、トヨタもはっきりしたことは言えないそうです。

車高

ガレージの天井などにぶつけたことはなく、それほど気にする必要はないようです。ちょうどアルファードと同じくらいの高さです。洗車の時は、機械を通しています。

駐車スペース

思ったほど広いスペースは必要ないです。自分で車椅子を積みこむ場合とほとんど変わりません。

良かったこと

雨が降っているとき、傘がわりになります。乗り移りの際、濡れません。車内に車椅子を積まないで、スペースが広くなりました。タイヤがドロドロの時でも大丈夫。

気になること

機械を使って車椅子を積むとき、とにかく目立ちます。歩いている人も足を止めて、じっと見られることがあります。これだけはいつまでたっても慣れません。

遅くなりましたが、今年度の総会ならびに臨時総会で承認された決議事項をご報告します。

2023年度 活動方針提起

■活動の基本的な考え方

自分らしくあるために「Take Action(行動を起こす)」しよう！

当会は1973年(昭和48年)頸髄損傷者(以下、頸損者)有志7名が集まつたことに始まり、本年第50回目の全国総会を開催する。設立以来、どんなに重い障害があっても、自律して生きられる社会を求めて交流・連帯し、生活を改善しながら個々の問題解決のために”Take Action(行動を起こす)”してきた。

結果、人権条約である「障害者権利条約(以下、条約)」批准のために、障害は個人ではなく社会にあるといった視点(社会モデル)で行った国内法の整備に対しても、私たち抜きで私たちのことを決めさせないという理念の下、障害の枠を超えて連帯して声を届け、それが政策反映されている。

新型コロナ感染症が収まりつつある中、オンライン等も活用し、以前よりさらに”Take Action(行動を起こす)”していく必要がある。頸損者の生活困難原因を究明すると共に、条約の理念が権利侵害することなく各国内法に反映されているか、他団体とも協力して注視しながら、個々の頸損者が直面する問題の解決を目指していく。

2021年3月、日本障害者フォーラムを中心に各障害者団体協力のもと、日本の総括所見用パラレルレポートは作成され、障害者権利委員会に提出された。我々が生きていくために必要な権利が示された。この条約を完全実施するために、各障害者団体や関連団体と協力をし、引き続き活動していく。

当会の目指す社会は、障害者権利条約の求める人権の守られる社会であり「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(通称：障害者差別解消法)」の差別の定義の明確化、民間事業者の合理的配慮の提供の義務化等、積み残された問題解決を目指す。障害者差別解消のためには、建設的対話を経て合理的配慮がなされることが重要であり、その延長上に共生社会の実現があると考えている。

また、引き続き障害者基本法他、関連法改正の動きも監視し、障害者権利条約の規定を法律に盛り込ませるように、法改正に向けた活動に積極的な協力をしていく。

医療では、新しい再生医療の技術が日本で実用化され話題となっている。頸損者に希望をもたらすことは歓迎であるが、過剰な期待を持つことなく冷静に対応したい。また頸損者に必要なリハビリテーションが提供できない医療点数制度となって久しく、結果、適切なリハビリサービスを提供できる病院・施設が減っている。医療・福祉分野における支援サービスについては、当事者の必要とするサービスと、現実制度のギャップを分析して、未だに多くある地域格差を無くし、「必要なサービスを、必要な人が、必要な時に」提供されるよう、政府に働きかけなければならない。

2020年1月から流行した新型コロナウイルス感染症も終息の方向に向かいつつある。今後、新たな感染症などが発生した場合にも、早急な情報提供を行うとともに各関係所管に必要な対応を求めていく。

社会の一員としてあたりまえに生きていくこと、主体性が認められた社会人として生きることができる社会にすることが我々の目指すところである。「昭和」から生まれた行動が、「平成」のうねりで様々な法律の制定を実現させた。「令和」を真の共生の時代とする活動を展開していくなければならない。そのためには社会のために、ひとり一人が「何ができるのか?」を考えて行動していく必要があり、当会でもその行動に対してできる限りの協力をしていく。

■基本活動

ひとり人が行動しよう！

頸損者が尊厳を奪われることなく、真にひとりの人間として心豊かに生きるために、自己信頼の回復が必要になる。それは困難を乗り越え、多くの成功・感動を体験することで取り戻すことができる。

当会には逆境をはねのけ、人生を取り戻した経験者や、幾多の失敗を糧に、次こそは上手くやると困難に挑む挑戦者が数多くいる。必要とする情報を提供して人生を取り戻す一助となるのが当会の最大の目標であり、孤独になりがちな頸損者のためにひとり人が行動するセルフヘルプ活動を行っている。

頸髄損傷者連絡会は当事者団体ではあるが、情報の提供は会員、非会員を問わず提供することを会活動のひとつとしている。今年度も以下の項目を活動の柱として運動を続ける。

- 頸損者へのセルフヘルプ、ピアサポートを積極的に実践
- ・各支部間の交流、支部のない地域での出張活動・招待活動等
- 頸損者の抱える問題を共有化し、問題解決の道を具体的に探す
- ・代表者会議、支部間交流、頸損同士の交流によって問題の共有化を図る
- 情報を収集し、頸損者及び関係機関等への情報提供をより充実させる
- ・機関誌・HPの内容充実、講演活動の充実
- 障害の枠を超えた各分野との交流・活動
- ・障害者団体、公的機関、学会、教育機関、分野別メーカーとの交流や関連会合への出席
- 他団体との統一行動
- ・介助、交通・まちづくり、制度改革などの課題を協力して行政への要請行動を行う

■活動重点目標

- ☆生活を向上させるための法律・制度・サービス改善交渉を行う
- ☆当事者の視点による意見を的確に伝えられる人材の育成を目指す
- ☆障害者支援を目的とする機関とのネットワークを拡げる

■分野別活動方針

●障害者の権利保障

- ◎障害者権利条約の総括所見を追い風に、長期入所を余儀なくされている頸損者の地域移行をサポートする。
- ◎障害者差別解消法がより実効性のある法律になるように取り組む。障害者が差別や偏見によって、社会参加が制限されないよう継続した働きかけを行う。

●介助制度

- ◎インクルーシブ社会の実現に向けて、介助制度の拡充を求めていく。
- ◎頸髄損傷者の地域での自立生活が確立できる介助制度の拡充を継続的に求めていく。
- ◎65歳問題により地域生活が困難に陥らないよう、障害者施策に対する積極的な意見発信をしていく。

●交通・まちづくり

- ◎生活の中で障壁となる事例を集め、他団体とも協力して、国に声を届け、解決策を求めていく。
- ◎各種会議、研修等に、積極的に参画し、当事者の声を届ける。
- ◎学習会開催などを通して、アドバイザー、講師として活躍できる人材の育成を行う。

●福祉用具（補装具・日常生活用具）

- ◎自立生活に必要な機器が、適確、迅速、安価に継続的に入手できるよう求める。
- ◎福祉用具の適切な選択、使用方法を指導助言できるネットワークの構築。
- ◎自立生活に必要な機器にかかる自己負担の地域格差解消に向けて準備する。

●医療関係

- ◎医療的ケアの学習会を開催することで当事者と医療従事者との繋がりを深め、高位頸髄損傷者に対する在宅医療支援制度および体制の充実化に加え、Withコロナ禍の自立生活に向けた在宅医療と福祉（介助制度の柔軟な運用）の連携を求める。
- ◎新しい重度脊髄損傷者の中長期入院の受け入れ環境整備基準の推進と更なる充実を求める。
- ◎高齢者の受傷と高齢化によって高齢頸髄損傷者が増加していることから、地域での自立生活を維持していくため地域医療やクリニックにも専門的な認識と体制の充実を求める。

●住宅環境

- ◎バリアフリーに対応した住宅のさらなる整備を求めていく。
- ◎住宅整備・改修助成制度の改善を求める（助成費用を適正額にする）。
- ◎住宅改修についての専門知識を持つ人材のさらなる拡充を行う。

●所得保障・就労

- ◎安心して自立生活が送れるだけの障害年金、生活保護の支給額のアップを求める。
- ◎「在宅就労」の普及と定着、就労している頸髄損傷者の給与アップを求める。
- ◎日常生活動作の確立と職業訓練が専門的に行えるリハビリテーションセンターを各地域につくり、社会復帰（復職や就職）出来るまでの一連のプログラムの提供を求める。

●女性の権利

- ◎女性リーダーの養成を行う。
- ◎女性頸損の交流の場を拡大させる。
- ◎専門家等との連携による学習会を開催する。

令和4年度 全国頸髄損傷者連絡会 収支計算書

令和4年4月1日～令和5年3月31日

収入の部

科目	金額
前期繰越	2,091,829
本部会費	38,500
本部運営分担金	531,000
寄付金等収入	1,202,072
事務諸経費	25,565
機関紙等売上代金	39,480
受取利息	2
合計	3,928,448

支出の部

科目	金額
団体加盟費	62,366
事務所使用料	180,000
事務諸経費	297,266
通信・発送費	179,883
機関紙等印刷・編集費	388,080
会議費	51,815
寄付金等収入	13,500
雑費	6,028
旅費交通費	46,960
次期繰越金	2,702,550
合計	3,928,448

上記のとおり報告します。

令和5年4月1日

会計

三ツ井 真平



令和4年度の会計について監査を執行し
収支は適正であり会計報告は正しく表示されていることを認めます。

令和5年4月1日

会計監査

三好 宏和



2023年度 全国頸髄損傷者連絡会 予算			
(2023年4月1日～2024年3月31日)			
収入の部		支出の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
前期繰越	2,702,550	団体加盟費	80,000
本部会費	38,500	事務所使用料	180,000
本部運営分担金	580,000	事務諸経費	50,000
寄付金等収入	650,000	通信・発送費	200,000
		機関誌等印刷・編集費	500,000
		会議費	160,000
		旅費交通費	400,000
		予備費	50,000
		次期繰越	2,351,050
	3,971,050		3,971,050

※新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したため、通常の活動（対面式での活動）を想定した予算案として作成しています。

2023年度 本部役員・事務局体制

■本部役員

会長 鴨治 慎吾（東京）

副会長 八幡 孝雄（東京）

村田 恵子（京都）

井谷 重人（愛媛 次期総会開催）

事務局長 宮野 秀樹（兵庫）

編集長 宮野 秀樹（兵庫）（兼任）

会計 三ツ井 真平（愛媛）

会計監査 毛利 公一（香川）

相談役 三戸呂 克美（兵庫）

坂上 正司（兵庫）

■事務局員

事務局次長 鈴木 太（愛媛）

事務局長補佐 関根 彩香（本部）

事務局員 青山 和幸（岐阜・ホームページ担当）

篠田 義人（岐阜・会計補佐&ML管理担当）

島本 義信（大阪）

井谷 重人（愛媛）

毛利 公一（香川）

第37回 リハ工学カンファレンス in 東京 参加報告

東京工業高等専門学校 機械工学科 菊谷 横

はじめに

第37回リハ工学カンファレンス in 東京が八月末に東京大学先端科学技術研究センター(以下、先端研と称する)で行われました。今年はハイブリッド形式で開催され、一部ではありましたが、3年ぶりの現地開催となりました。

今回は、アルバイトスタッフの記録係として期間中は3つの会場を回りながら、カンファレンスの様子を撮影しました。カンファレンスの内容はもちろん、スタッフとして関わってみた感想などもご報告させていただきます。

カンファレンスの概要

会期：2023年8月24日(木)～8月26日(土)

開催形式：現地とオンラインのハイブリッド開催

会場：東京大学・先端科学技術研究センター

大会長：熊谷晋一郎 先端研

実行委員長：並木重宏 先端研

主催：(一社)日本リハビリテーション工学会

カンファレンスの感想

今回のテーマである「リハ工学の先端で、インクルーシブ社会をさけぶ」は、高専に通っている私にとってとても興味深いものでした。Chat GPTなどのAIを活用した支援機器や3Dプリンターで作成された自助具などが取り上げられていました。また、最近の世界情勢からか、ウクライナなどの紛争地域への車椅子や自助具の支援などの発表もいくつかありました。日本は世界から見ても支援機器の技術力で注目されているからこそ、支援を求められているのだと思います。

特に印象に残ったセッションは3日目に行われた公開セッション「働くことの「当事者研究」」でした。

私はまだ学生で働いた経験がなく、不安を抱えていました。しかし、今回のパネリストたちの話を聞いて、自分が働きやすい環境がある企業が多くなり

配慮してくれることを聞いて、不安要素が減りました。私はパネリストさんたちと先端研のプログラムである DO-IT Japan でつながりがあり、先輩方が発表している姿を見て勇気をもらいました。また、これから自分があの場に立つ側になりたいと思っています。

アルバイトで感じたこと

初めてのアルバイトだったため「自分にできることがあるのか？」や「車椅子で参加できる？」などの疑問点・不安要素がありました。しかし、障害者のためのカンファレンスということで車いすでの仕事を許可していただき、記録係としてアルバイトを行いました。

カンファレンス中は宮野さんをはじめとし、様々な人に出会うことができました。開催期間中は役職柄、3つの会場を行き来し、様々な場面を撮影する必要があったため、講義をすべて通して聞くことができなかったです。

リハ工カンファレンスには、障害を持った方々(当事者)が登壇しているセッションが多いと感じました。当事者も議論をしたり話題提供することで、必要な情報が健常者に伝えることができる機会が少ないので、リハ工カンファレンスはとても貴重な場であると思います。

最後に

運営スタッフの中に車いすユーザーもいたので、障害がある当事者がカンファレンスを支えている一因になれたことはうれしかったです。

私は高専で機械工学を専攻していて、将来は肢体不自由への支援機器を製作したいと考えています。その時には、リハ工カンファレンスでパネリストとして議論するという、技術者としての決意を持つことも今回のカンファレンスでできました。

4都県合同交流会

主催支部 東京頸髄損傷者連絡会 会長 鴨治 慎吾



4都県合同交流会

日時：2023年10月21日(土) 14:00～16:00
場所：東京都立産業貿易センター浜松町館第1会議室及びZoom

神奈川・東京・栃木・福島の4県が毎年いずれかの地域に集まり、交流会を行おうと始まった「4都県合同交流会」。ここ数年、オンラインでの開催でしたが、コロナ感染症が感染症法の5類となったため、久々に対面とZoomによるハイブリッド開催としました。会場はJR浜松町駅及び都営大江戸線大門駅から近く、アクセスは良かったそうです。

残念ながら私は、直近でコロナ感染症にかかり、(症状は軽かったのですが)自宅療養中のため、自宅からのZoomでの参加となってしまいました。

インフルエンザ等も流行りだしたせいか、3名の方が欠席したため、相山敏子さん(福島)・永田元司さん(栃木)・伊藤道和さん(神奈川)・宮野秀樹さん(本部)・関根彩香さん(本部)・鴨治(東京)の計6名での交流会となりました。

まずは自己紹介から始まり、各々の近況報告や相談事について話がはずみました。

やはり話題になったのは、「65歳介護保険等」についてでした。もうすぐ介護保険なのでどうすればよいのか?や65歳を過ぎても介護保険を申請せず障害の制度のみで生活している方の現状についてなどの話が出ました。65歳問題については皆気になつていて、やはり不安を抱いている方が多くいるのだと思います。

そのほかでは、関根さんから、数年前からボッチャを始めてからの体験談やランプ(ボールを投げることができない選手が使用する勾配具)の調整の難しさ、ボッチャをサポートしてくれる支援者がなかなか見つからないことなどの報告がありました。ボッチャの大会に出て優勝したことや今後の大会で勝ち進めば日本代表選手になれるかもしれないということでした。

やはり、人が集まるといろいろな情報をることができますね。来年も東京支部が担当しますので、多くの方のご参加をお待ちしております。

京都頸髄損傷者連絡会 設立40周年記念式典を終えて

京都頸髄損傷者連絡会 河前 雄也

去る10月28日、京都頸髄損傷者連絡会設立40周年記念式典が京都テルサとオンライン形式の併用にて開催されました。

まず、冒頭の開会挨拶にて会長の村田氏から当連絡会のこれまでの歩みの紹介と新しく作成されたロゴマークのお披露目があり、その後、会長から寄付団体と歴代の会長に感謝状が贈呈されました。

基調講演ではDPI日本会議議長・平野みどり氏による自身の半生と、活動を基に障害女性が抱える課題と、障害者権利条約の対日審査についてお話をいただきました。

障害女性は、障害者が抱える問題と女性が抱える問題を切り離して考えることが出来ず、絡み合っている点が難点だと思いました。

続いては相談役の小森氏と副会長の山中氏によるトークセッションが行われました。小森氏の受傷から当会との出会い、初期の活動内容や会長時代の思い出、今後の課題等を山中氏が質問し、小森氏が答える形式で行われました。初期の活動メンバーである堀川氏と出会い、会長時代はカナダへ自立生活をされている方へお話を聞きに行く等、様々なお話を小森氏と活動を通して歴史を振り返る機会となりました。堅苦しい雰囲気でなく、お二人の軽妙な掛け合いで、笑いも起きる和やかな時間ともなりました。

その後は、交流のある団体から当会との思い出について語っていただきました。

お一人目は大阪頸髄損傷連絡会の島本氏に小森氏と出会いの思い出や大阪と京都、両会の交流会のイベントの歴史を写真付きで振り返っていただきました。時折、会場から「懐かしい」や「若い」と歓声が上がり、お互いの会の付き合いの長さを改めて実感する機会となりました。コロナ禍後はオンラインでの交流会が続いているが、対面での交流が再開されることを願ってのむすびとなりました。

そして、お二人目のJCIL日本自立生活センター

代表香田氏からは、JCILと当会が古く長く付き合いがあること。現在では、香田氏と現会長の村田氏が共に障害女性が抱える課題に取り組んできた戦友であると思っていること。最後には、同じ障害者の団体として、ピアとしてこれからも協力して課題解決に向けて取り組んでいきましょう！と熱いお言葉をいただきました。

その後は当会会員による三つの活動報告がありました。

まずは、平野功氏による車いす電動アシストのデモンストレーションが行われました。制作の過程をビデオで紹介された後、実機を用いて操作の説明がありました。式典終了後も出席者が話を聞きに来られる等、会場の興味を惹きつけていました。

次に、遠藤氏による「福祉サービス等のあゆみ」のプレゼンが報告されました。戦中から70年代の障害運動を経て少しづつ障害福祉政策も変化してきたこと。一方で、精神障害者には一部、措置制度が適応されている等、課題も多々あることを伝えていただきました。

最後に、山中氏からは「京都頸髄損傷者連絡会の活動と展望」と題して近年、行政懇談会を通して制度の変更に繋がった事例を中心に活動の根幹にある思いを語ってくださいました。

訪問看護ステーション利用料3割負担問題、リチウムイオンバッテリー公費支給のどちらとも日頃の問題や疑問を解決するために行動した結果であり、これからは障害者権利条約の対日審査で挙げられた「脱施設」にも取り組んでいきたいと展望を述べておられました。

式典終了後は、立食形式でセレモニーが行われ、和気あいあいとした雰囲気のなか終了しました。

ゆいまーるビーチフェス参加報告

-沖縄の空と海を感じて-

兵庫頸髄損傷者連絡会 土田 浩敬

1、はじめに

みなさんこんにちは。兵庫頸髄損傷者連絡会に所属する土田浩敬です。今回私は、10月6日(金)から9日(月)まで、沖縄県へ行ってきました。主な目的は、マリンアクティビティを体験するためです。昨年、事務局長の宮野氏が沖縄の海でマリンアクティビティを体験された話を聞いてから、是非やってみたいと思っていました。

その前にマリンアクティビティとは何か?例に挙げると、スクubaダイビング、シュノーケリング、サーフィン、SUP(スタンドアップパドルボード)、カヌー、カヤック、ヨット(セールボート)、水上スキー、釣りなど多岐にわたります。海上または海中を活動の場としているスポーツ(厚生労働省ホームページより引用)ですが、この多岐にわたるアクティビティの中から、今回私は“バナナボート”にチャレンジしてきました。

2、マリンアクティビティに向けての準備

私は小学生の頃、水泳を習っていました。夏になると川で魚取りをして遊び、水に触れる機会の多い子供時代を過ごしました。しかし、最後に海に入ったのは小学生の時以来で、それ以降は海に行く機会はあっても、海に入ることはませんでした。現在39歳で、海に入るのは約30年振りでしょうか。

私はマリンアクティビティを楽しむため、準備に取り掛かりました。宮野氏の話によれば、沖縄の日差しはかなり強いと聞きました。ラッシュガードを上下購入して、日焼け止めも購入しました。サングラスもあった方がいいと聞いたので準備しました。少し私が気になったことがあります。それは海に入った後、体は洗い流すことが出来るのか。健常者の頃の記憶では、海水が肌に残ると気持ちが悪かったことを覚えています。普段肌トラブルが起こることが少ないので“まあ何とかなるか”と楽観的に捉え

て、現地についてから考えることにしました。

また今回は「沖縄県営平和祈念公園」と「ひめゆり平和祈念資料館」にも見学に行きました。沖縄の歴史を学び、より沖縄への理解を深めるためです。そうすることで、もっとマリンアクティビティが特別なモノになるのではないかと考えました。

飛行機に乗ることも久しぶりでした。最後に飛行機に乗ったのは、2019年に北海道へ行って以来、4年振りとなります。飛行機の予約を取ってから、電話で航空会社に電動車椅子の情報を伝えました。また私は、睡眠時無呼吸症候群の治療で使用している“CPAP”的情報も伝える必要がありました。あとは飛行機内の座席の位置も変更しました。必要があれば介助出来るように、私の隣に介助者の席を確保してもらいました。

マリンアクティビティを体験すること。それは重度障害者ならばなおさら、一筋縄では行きません。沢山の下準備が必要になるのですが、その下準備があるおかげで、楽しむことが出来るのです。また、様々なハードルを一つ一つクリアしていくことが“自信”にも繋がるということを、私は過去の経験から学んでいます。

3、沖縄へ出発

沖縄に出発する当日、いつもより少し早めに起床しました。前日、訪問看護で排便したのですが、お腹の調子が思わしくありません。嫌な予感がしたので、就寝時にフラットの吸水シートを臀部の下に敷いて寝ました。そんな嫌な予感は的中、朝起きた時には、それなりの量の便が出ていました。幸い、吸水シートを敷いていたので、15分程度で処理することが出来ました。気を取り直して沖縄に向けての出発

準備を再開し、予定していた時間通りに家を出ました。最寄りの駅はJR三田駅。ここから伊丹市にある大阪国際空港へ向かいます。電車とモノレールを乗り継いで、約1時間半で大阪空港に到着しました。

大阪空港でチェックインして荷物を預けます。その後、電動車椅子から航空機内用の車椅子に移乗。久しぶりの飛行機も、目立つトラブル無く無事に那覇に向けて離陸しました。

4. 沖縄に到着

約2時間で那覇空港に到着しました。私は着いた途端、高い湿度と眩しい太陽を感じました。“沖縄に来たー！！コレコレ、この感じ！！”とウキウキが止まりません！レンタカーに乗って晩御飯を食べるためには移動開始です。

晩御飯はステーキ！！実は11年前にも同じ店でステーキを食べた思い出の場所と味です。僕は300gのステーキを注文。期待に胸を膨らませて、久しぶりのステーキを心待ちにしていました！数分後ステーキが目の前に！早まる気持ちを抑えながら、まずは写真撮影。



最高に美味しいステーキは思い出の味

その後待ちに待ったステーキです！最初の一口“あーこの味、この味！！”柔らかい牛肉から、口の中にいっぱいに広がる肉汁がたまりません！もう最高です！ステーキを口の中に入れる手が止まりません（介助者の手）！ステーキと一緒に食べる特製ガリックライス。至福のひと時です！改めて言いますが、人生で一番美味しいステーキでした！最高です！300gのステーキをあつという間に完食しました！

5. マリンアクティビティ

2日目の朝、5時に起床してマリンアクティビティに参加するための身支度を始めます。ラッシュガードを着用して、日焼け止めも入念に塗ります。朝食を済ませ、程なくしてからレンタカーに乗り込みマリンアクティビティが行われる会場に向かいます。

「豊崎海浜公園豊崎美らSUNビーチ」この場所でマリンアクティビティが行われます。今回は「ゆいまーるビーチフェス」という名称で、車椅子ユーザーの三代達也氏が発起人となり準備を進めて来られました。実行委員の中には、同じ車椅子ユーザーの方や、学生ボランティアが準備に勤しまっていました。

参加者が続々と集まり、ビーチフェスの開会式が始まりました。私は始まる前、一抹の不安を感じていました。それは“猛烈な熱さ”です。普段熱さに強い方なので、準備段階ではそれほど不安に思っていませんでした。しかしビーチフェス当日、朝から容赦なく照りつける太陽が、気温をぐんぐん上げてきます。その日差しは本州に比べると、優に2倍の強さはあるんじゃないかと思うくらい強烈です。



暑さにやられてしまった図

頸髄損傷者である私は、あっという間にノックアウト…。熱さでフラフラの状態の中、バナナボートの順番を待っていたのですが一瞬でギブアップ…。順番を午後に変更してもらい、会場近くにある空調の効いた商業施設へ一時避難しました。

しばらくして、空調の効いた場所にいたことで体温が下がり、体調が落ち着きました。大会事務局に体調が回復した旨を伝えて、待ちに待った“バナナボ

ート”にチャレンジ！！もうここまで来たら不安は無く、とにかく楽しむことが一番！！私はビーチ用の車椅子に移乗して、海辺まで移動します。海辺で感じる風は最高に気持ちがいい！普段の生活では絶対に感じることが出来ません。沢山のボランティアの方々に手伝ってもらい、ビーチ用の車椅子からバナナボートへ移乗しました。バナナボートに乗り込むには少し高さがあるので、安全を優先して数回に分けて乗り込みました。体幹が不安定な私の体を、両サイドからボランティアさんに支えてもらって準備は万端です！



バナナボートで記念撮影

バナナボートを引っ張るジェットスキーが出発しました。ジェットスキーとバナナボートを繋いでいる“ロープ”がピーンと張り、水面をバナナボートが走り始めました！時折波でバウンドするバナナボートはスリル満点！私は、沖縄の海を疾走するバナナボートに乗っています。私はまだ不思議な感覚です。頸髄損傷者になり、様々なことに対して沢山諦めきました。しかし今回は、高位頸髄損傷者の私でも、チャレンジすることで“不可能”と思っていたことが“可能”になったのです。色々なことが頭の中を過ぎりながら、あっという間にバナナボート体験は終わりました。ひとことで言うとするならば、最高に楽しかったです！

6、最後に

3日目、私たちは「沖縄県営平和祈念公園」と「ひめゆり平和祈念資料館」へ行ってきました。現在、世界中のいたる所で戦争が起きています。かつて沖

縄も戦争を経験しています。1945年、アメリカ軍による沖縄占領から、1972年5月15日の沖縄本土復帰に至るまでの27年間、アメリカ合衆国によって占領統治されてきました。沖縄戦では日米合わせて延べ20万人以上の方が亡くなりました。そんな悲しい過去があったとは思えないくらいに、美しい沖縄の海と空。



沖縄の美しい海と夕日

今の当たり前が、当たり前ではなかった過去があるから、このように障害がある私たちでも、マリンアクティビティを楽しむことが出来るのです。沖縄の海を眺めていると、様々な想いが込み上げてきます。青く透き通ったエメラルドグリーンの海には、多くの人の“祈り”が込められていることを忘れてはいけません。この貴重な場を作ってくださった関係者の皆様に心から感謝します。そしてチャレンジする大切さを教えてくれた先輩たちにも深く感謝します。ありがとうございました！

山本格生さんを偲ぶ会の報告

2023年度 頸髄損傷連絡会 岐阜懇親会

頸髄損傷者連絡会 岐阜 青山 和幸

新型コロナウイルス感染拡大で対面での懇親会を中心していましたが、ようやくコロナも収まりつつあり 2019 年以来 4 年ぶりに集まることになりました。

今回、久しぶりの懇親会を開催するにあたり、頸髄損傷者連絡会・岐阜の会長で令和 3 年 7 月に亡くなられた、山本格生さんを偲ぶ会を行うこととした。

山本格生さんは、これまで頸髄損傷者連絡会・岐阜で会の機関誌や会報の編集から発行までを機関誌担当として行ってこられ、企画運営を担当されていた時は懇親会や忘年会を開催されたり、IT 勉強会では講師をされたり、2020 年の全国頸髄損傷者連絡会 岐阜大会では実行委員会のまとめ役として活動されました。その後は岐阜支部の会長としてご尽力されてきました。また、全国頸髄損傷者連絡会の会計役員もされていました。



山本格生さんを偲ぶ会は 9 月 17 日（日）に JR 岐阜駅に隣接するじゅうろくプラザの研修室にて行われました。

当日は岐阜支部の会員と会員以外の方で 18 名が参加され、在りし日の山本さんの色々な写真をスクリーンに映し、見ながら当時を思い出し語り合っていました。



都合で参加できなかった方から、「いろいろなことを尋ねるといつも教えてくださったことがとても印象に残っています。」などの山本さんとの思い出のメッセージもスクリーンに映し紹介されました。



参加された方からは、「いろいろ教えてくださいありがとうございました」「山本さんのおかげでここまでこられた」「今でも信じられない」「いつも笑顔で接してくださいました」「たわいのない話して盛り上がり楽しい時をありがとうございました」「負担になる事も快く受け入れて感謝している」「自分の事も他人の事も一生懸命にされる方だった」「いつも気にかけ話しかけて頂きありがとうございました」「優しくまじめな方だった」「仕事や頸損連絡会の事を一緒にやってきて、エピソードも思い出されます」などの思い出を話されました。山本さんは、とても頑張り屋さんでまわりの人から頼りにされ面倒見がよく、多くの人たちから慕われていた方だったことが改めて思い出される会となりました。



赤尾前会長追悼イベント

～ 赤尾さんとの思い出をみんなで語り合おう！を開催しました！ ～

大阪頸髄損傷者連絡会 柏岡 翔太

コロナ渦も落ち着いた8月20日に、自立生活センターあるるで赤尾前会長の追悼イベントを行いました。オンラインの参加者と介助者も含め26名の参加者があり、その内の5名の方々に赤尾さんとの思い出を語っていただきました。時間は一人7分でこちらから5つの質問をしていく形で行いました。質問内容は「赤尾さんとの出会い、赤尾さんの忘れられない思い出、赤尾さんを漢字一文字で表すと、赤尾さんのこれはすごいなと思ったこと、天国にいる赤尾さんにメッセージ」でした。

当日のプログラムは、開会の挨拶を柏岡が行い、次に赤尾さんのオープニングムービーを流してトークセッションに入って、最後に閉会の挨拶があり1時間のイベントが終了、その後に交流会を行いました。

トークセッションでは1人目の時は、正直僕も含め皆さん堅さがあったのですが、語ってくれた5名の方々がしっかりと笑いも挟んでくれて、そして締めるところは締めてくれて、会場の雰囲気も和んで流石だなと思いました。皆さん楽しそうに赤尾さんとの思い出を語っていたのを見て「赤尾さんってやっぱりすごい方やったんやな！」と改めて感じながら司会をしていました。

このイベントが終わった後に「良かったで！」という声をいただけて、準備をしてきて良かったという思いと、この楽しい雰囲気が赤尾さんに届いたら嬉しいなと思います！



書籍紹介

いのちを乗せた車いす

～犯罪被害者の私が車いすユーザーとなって～

出版社：クエーサー出版

販売価格：1,650円 オンデマンド（ペーパーバック）

著者名：鈴鹿典子

どんなに大きく困難な経験があったとしても、誰もが過ごしやすい医療現場や社会全体のために、かなう範囲で一緒に考えていただけるように、著者の車いすユーザーの患者として、犯罪被害者としての生活を通して、日常の暮らしや医療現場での思いをつづった日記。

NPO 法人ケアリフォームシステム研究会

第20回全国大会 in 愛知 参加報告

全国頸髄損傷連絡会 宮野 秀樹

2023年10月14日（土）に愛知県の豊橋市民文化会館において開催された「NPO 法人ケアリフォームシステム研究会・第20回全国大会 in 愛知」に参加しましたので報告します。

障害者（児）や高齢者およびその家族の立場を第一に考えて、本人の自立（律）支援と介護者の負担を軽減することを目的として、福祉機器の活用や住環境の整備等によるケアリフォームシステムの普及活動を行っているのが『ケアリフォームシステム研究会』です。“ケアリフォーム”とは、介護のためだけではなく、自立（律）につながるリフォームを目指したいという想いで行っている介護リフォームをそのように呼ぶようです。

今回で20回目を迎える大会のテーマは、「身体が不自由な方とそのご家族の、減災防備の住まい 介護リフォームの匠と一緒に、できた！！がいっぱいの住まいづくり」。

基調講演では「阪神淡路大震災の経験から」と題して、橋本建設株式会社・代表取締役の橋本和典さんがご講演されました。震災直後の生々しい様子や、そこから復興していく様子、また、被災者でありながら復旧活動にも従事され、体調を崩しながらも困難を乗り越えられた様子を聴きました。私もリハセンター入院中に阪神淡路大震災を経験したことから、橋本さんの話に大変であった当時の記憶が蘇りました。震災の経験から得たこととして、「災害に備える」ことが重要だということ。備え方や準備は人それぞれであるけれど、できることを少しでもやっていこう、という言葉は共感できます。また「命あっての物種」という言葉が、同じく被災した者として、心から同意できるものでした。

同じく基調講演として、ケアリフォームシステム研究会・顧問の松尾清美さんが「熊本大分地震での被災経験から生活や人生の考え方の変化」と題して

ご講演されました。英気を養うために建てた家が、地震によって修復を余儀なくされたご自身の経験を話されました。震災の経験を生かし、擁壁を地震に耐える強度に復旧させ、大雨の時の排水効率を良くするために排水路を整備し、スロープも新設して生活を元に戻された話は、大変勉強になりました。何度も心が折れかかったけれど、やはり修復してよかったですと仰っておられましたが、実際には相当な気力を要したと思います。そして、高齢者や障害者（児）、被災者への支援は「思いやりが大切」との言葉は、本当に共感できるものでしたし、「脳や身体への刺激を継続することで、身体機能維持や促進を図り、かつ拘縮や変形をなくして楽しくいきましょう！」という言葉は、障害当事者ならではの説得力がありました。自身の経験を通じて、「身体機能と生活方法、そして周辺環境を考慮して住環境を改善することで、身体に障害が現れても生活を楽しみ、高齢となって自立した生活動作ができるにくくなってしまっても、再度、環境整備すれば、介助負担を軽減して人生を全うできる、と感じている」という言葉に、大きな勇気をいただきました。

その他にも、ケアリフォーム事例発表として、「遺伝子疾患のわが子との知恵くらべ」や「頸髄損傷C6・自立できる家を目指して！」などのリフォーム事例が紹介されました。

障害当事者やその家族に寄り添ったリフォーム事例は、そのどれもが参考になりましたし、情報提供を行う立場からも学びが多い大会でした。情報提供をする側として活躍する障害者こそ、このような場に来るべきだと強く感じました。障害者や高齢者とその家族や支援者、福祉の専門家、メーカーの方々と一緒にケアリフォームや福祉住環境について考えるこの全国大会は、来年は、兵庫県加古川市で開催されるそうです。

四国頸損の集い 2023 報告

愛媛頸髄損傷者連絡会 井谷 重人

日本中が急激に寒くなった11月12日に、その名の通り四国の真ん中に位置する四国中央市で「四国頸損の集い 2023」を開催しました。毎年、四国中からたくさんの頸損の仲間やその家族、関係者が集まる…ことを目標に、こぢんまりと行っています(笑)それでも毎年、初めて参加される方がおられ、意味のある集まりになっています。

今年は愛媛から6名、香川から3名、徳島から1名の計10名の当事者が集まりました。高知は独自の頸損の集まりがあるためか残念ながら参加者はありませんでした。



初めてお会いする人もいたので改めて自己紹介と近況報告行いました。特に、自立してまだ2週間経っていない愛媛の井上さん、受傷して数年でこれからサービスを使っていこうという香川の藤田さんに注目が集まりました。



お二人の状況は集まったメンバーも通ってきた道のりなので、自分のことのように聞かせていただきました。会が終わってからも個別相談みたいな感じ

で、みんな家に帰らないといけないギリギリまで話し尽くしました。



開催にあたり、会場やお弁当の手配をしてくれた鈴木くんありがとうございました。

来年は高知県や四国以外の方も参加していただけすると嬉しいです。

おまけ

個人的な話ですが、四国中央市にあるスターバックスに行けたのが嬉しかったです。

驚いたのがオープンから2年も経たないこの店舗に、黒エプロンの方が3人いらっしゃったこと。知っている人は知っているのですが、スタバの社員さんは厳しい試験に合格すると黒エプロンをつけることができます。しかも毎年新しい情報を含んだ試験を受けないと更新できません。更新すると星が一つずつ増えていきます。なので、まだ2年も経っていない店舗に星5が二人、星2一人いらっしゃったのは凄いことだなと。感動。



第10回 To be yourself 65歳問題3

兵庫県頸髄損傷者連絡会 橋 祐貴

はじめに

9月30日に「第10回 To be yourself 65歳問題3」がオンライン(Zoom)にて開催されました。今回も5月の第2回の時と同じく全国頸髄損傷者連絡会の鈴木さんと四天王寺大学の丸岡さんが進行役になってミーティングが行われました。30代の私にとって介護保険への移行はまだ先のことではありますが、介護保険へ制度が移行するときにどんなことが問題になっているのかを知っておくことは大事ではないかと思い参加しました。

セミナーの様子

はじめに、前回までに話題に上がったことについて振り返った後、65歳になってからも介護保険に移行せずに障害福祉サービスを継続して利用している神奈川の伊藤さんより、介護保険に移行しなかった経緯について話題提供がありました。また、進行役の鈴木さんと丸岡さんからは頸髄損傷者の65歳問題について、厚生労働省や脊髄損傷者連合会の資料や頸損解体新書の調査データ等を用いながら補足説明がありました。

参加者からは、「もうすぐ65歳になるが、介護保険に移行することで今までの生活が変わってしまうのではないか不安だ」という意見が出していました。また、自動車事故でNASVAを利用している人からは、「65歳になるとNASVAが利用できなくなるので、今まで受けられていたサービスはどうなるのか不安がある」と話されていました。介護保険に移行することで費用負担が生じることについても、「65歳になるという理由だけで、今までの応能負担から応益負担に変わるのは納得がいかない」といった意見が出ました。

専門家からの意見

今回は頸損当事者以外に専門家の参加もあり、一般社団法人福祉用具活用相談センターの吉川和徳さ

んからは、介護保険と障害福祉の制度との連携について説明がありました。これまでの福祉制度は属性別にサービスを提供してきましたが、利用者のニーズが複雑化・複合化してきている中で、制度や分野の壁を越えた包括的な支援体制を整えることが必要になっていると説明がありました。また、介護保険を利用している場合、車椅子は補装具でなく日常生活用具という扱いになってレンタルが基本ですが、既製品では対応が難しい場合は障害福祉サービスを利用することできる等、関連する資料を用いながら詳しい説明がありました。当事者だけでなく専門家が加わることで問題解決へのヒントが見つかる場合があるので、当事者と専門家が同じ場でディスカッションすることは大事だと改めて感じました。

参加してみて

65歳問題は私にとってはまだ身近ではなく、何が問題になっているのかイメージしづらいテーマでしたが、介護保険に制度が変わることによって、今までの制度では利用できていたサービスが利用できなくなったり、今までよりも費用負担が大きくなることに不安を感じている人が多いことがわかりました。その一方で、制度をうまく活用して、今までと生活にあまり変化がなかったという声もあったので、まずは自分が利用できる制度について知っておくことが大事なのかなと思いました。



参加者の集合写真

65歳問題もっと勉強が必要

～ 介護保険移行後も車椅子・電動車椅子は給付可能です ～

全国頸髄損傷者連絡会 事務局次長 鈴木 太

はじめに

機関誌で「65歳問題」を取り扱い始めて5回目の記事になります。知り合いから40代で介護保険に移行したという連絡から始まった「65歳問題」ですが、知れば知るほどわかりづらい点が多く、日々新しいことをみなさまから教わっている状況にあります。まだ40代の私にとってはどこか他人事で、問題意識を持っていなかつたことも事実です。To be yourselfオンラインディスカッションでは3回にわたり「65歳問題」を取り上げてきましたが、各々で必要としている情報が違い、地域によっても対応がまちまちであることが分かつてきました。

To be yourselfでの収穫

今までに3回のTo be yourself「65歳問題」が開催されましたが、驚かされることばかりです。

重度訪問介護利用者が介護保険移行時に、まかなければいけない部分を障害福祉で補うと考えてきました。しかし、障害福祉の身体介護を中心に生活を組み立てる参加者から、介護保険には移行していないという報告がありました。一週間に数回の利用者が介護保険に移行していない情報はありましたが、身体介護を中心に生活を送る新しい報告は今まで把握できていない情報でした。生活が成り立たなくなるというのが主な利用で認められたそうですが、当事者と自治体が話し合い移行しなかったそうです。

車椅子・電動車椅子給付についても、介護保険移行後はレンタルされる車椅子を利用しなければならず、個別にあわせたシートが必要になる頸髄損傷者には利用できる車椅子が利用できないと考えていました。しかし、補装具給付と介護保険は別物で、介護保険移行後に車椅子の給付は受けることが出来ることが分かりました。To be yourselfに参加の専門家から情報提供いただき、頸髄損傷者からの情報を待つだけでは受け取れない情報でした。

どこか似ている問題

「65歳問題」を取り上げていく中で、どこか以前にもこのような問題を経験したような感覚になります。それはヘルパーの時間数確保の問題です。情報として、24時間のヘルパー時間確保が実現した報告、～時間二人介助が実現したなど、頸髄損傷者にとって実現したい安定した生活が、一部ニュースでも取り上げられました。しかし、ある地域では実現し、ある地域では実現しない現状が今でも続いています。そこでよくとり上げられるのが、本当にこの本人がどのような生活を行いたいというのか?ということです。本来ここに十分な説明が行われたら、地域にあわせた安定した生活のためにヘルパーの時間数やサービスが確保は出来るはずです(最近は介助者不足、障害福祉事業所の減少など違う問題も持ち上がってきています)。「65歳問題」も地域にあわせたサービスの十分な説明がなされないことで、65歳になったからいきなり制度が変わり、提供サービスが変わりますよというのが問題なのだと感じています。

どのように準備していくのか

「65歳問題」に取り組んできて、やはり自分で情報を持っておくことが一番重要です。相談支援専門員やケアマネジャーに質問しても全てをしっかりと把握し回答できる人は少ないです。あわせて、地域の福祉サービス全体を把握できていないといけません。制度をまたぐこの問題はここが一番難しいと感じます。自分だけでは全てを把握することは困難です。相談支援専門員やケアマネジャーと得意分野を共有しながら、どれだけ安定した生活を求めていくことがアピールできるかが重要になります。しかし、最後は自治体の裁量に任されます。行政との話し合いも重要です。65歳以降の生活環境をイメージしながら「こんな生活を続けたい」というところから、各地域での安定した生活を実現していきましょう。

頸損解体新書 2020・調査報告書作成を終えて

— 実行委員会メンバーからのメッセージ —

2021年6月に「頸損解体新書 2020—自分らしくあるために—」が完成し、約4年という長きに渡り行つてきた「頸髄損傷者の自立生活を社会参加に関する実態調査 2020」事業を終え、2022年3月20日をもって、アンケート調査票作成からアンケート調査の実施、調査結果をまとめた最終報告書の作成、最終報告書をもとにした報告会の実施までを行うために組織した「頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査 2020」実行委員会を解散しました。この実行委員会には、頸髄損傷者をはじめとして、リハビリテーション工学研究者、福祉機器メーカー社員などの専門家が加わり、現在の頸髄損傷者の自立生活と社会参加の実情を把握し、自立生活と社会参加を促進する上で必要な社会的支援のあり方を示すために、多くの意見を交わし、議論を積み重ねました。実態調査から最終報告書発刊までの道のりはとても大変でした。大変な時間と労力を費やして完成した「頸損解体新書 2020」ですが、この実態調査ではできなかったことややり残したこともあります。次に引き継ぐためにも、実行委員会メンバーからのメッセージを連載方式で掲載してきましたが、今回で連載は最後になります。

頸損解体新書 2020 の作成を終えて

全国頸髄損傷者連絡会 会長 鴨治 慎吾

私がこの「頸損解体新書 2020」の作成に関わるのは、前回の「頸損解体新書 2010」に続いて2度目です。「頸損解体新書 2010」の刊行にあたっては、全体というよりは、部分的なところでの関わりで、ただその場にいただけのような感じがありました。

前回で感じたことは、当事者の想いや研究者の考え方にもいろいろあることを知りました。当事者としては、頸髄損傷者の生活実態を顧むにし、より生活しやすい環境を求めていくことにありましたが、研究者の方々は、研究材料としての調査も目的としたかったため、活発な議論が行われた記憶があります。

今回関わっても、いくつかの場面でそのような事がありました。お互いが理解し合いながら、話を進めてきたため、前回よりも円滑に調査ができました。また、約10年前と現在では制度、時代の考え方、経済等が大きく変化しており、質問内容も時代に合わせた設問にしました。途中から、世の中にコロナ感染症が蔓延してきましたが、オンラインで会議ができる状況も容易になりました。まさに、時代の変化であると感じました。そのオンラインで会議ができたおかげで、様々な意見交換ができました。その成果として、「頸損解体新書 2020」が現在の頸髄損傷者の現状が把握できる内容のものとなったと思います。

今回、「頸損解体新書 2020」を刊行するにあたり、三菱財団、研究者の方々、関わってくださった方々に、この場をお借りして、深く感謝いたします。

頸損解体新書は、継続して調査が必要であり、今回掘り下げきれなかった課題等もあります。頸損連絡会としては、課題解決のため、引き続き必要な調査を行く所存です。今後とも、皆様のご協力を宜しくお願ひいたします。

私が頸損となり、この先を考えた時に「頸損解体新書」を読み、頸髄損傷者としての人生を考えられるようになったように、この本を読んだ方が頸損を理解し少しでも先に進めるようになっていればと思います。

頸損解体新書 2020 の作成に携わって

全国頸髄損傷者連絡会 事務局長 宮野 秀樹

頸損解体新書の作成に携わったのは、2010年の時からです。『人生をあきらめない 自分らしく生きる』『頸髄損傷者に残された社会的条件整備の課題』の執筆を担当し、よくわからないまま、それでも何か重要なことを任せたという緊張感を持って原稿を執筆したのを記憶しています。当時は、実行委員ではなかったこともあり、特別に責任も感じることなく携わっていましたが、今回は、実行委員として「頸髄損傷者の自立生活と社会参加に関する実態調査」から携わることになり、結構なプレッシャーを感じました。実行委員に加わってくださった専門家の皆さんは、「決定するのは頸髄損傷者メンバー、専門家はそれをサポートする」ことに努めてくださいましたが、頸髄損傷者メンバーの中の意見をまとめる必要もあり、その判断を私が任される場面が多く、全般的にこの事業を進めるにあたって相当悩んだことも事実でした。

正直申しますと、報告書が完成したときには「もう二度と関わりたくない。」という感想を持ちましたが、実際に報告書の内容を何度も見返すと、障害者と専門家が一緒に調査・分析・まとめるという作業がいかに重要であるかを強く感じ、携わることができてよかったです。

報告書には、「頸髄損傷者自身が自らの生活体験を通して得たもの」を情報提供するといった意義があります。実態調査の目的を「現在の頸髄損傷者の自立生活と社会参加の実情の把握」としましたが、この調査から得たデータを用いて政府や関連省庁との交渉に活用したいとも考えていました。内輪で議論したとしても、問題を客観的に見ることはできません。我々が問題を解決していくためには、専門家の協力のもと、客観的な視点を入れつつ、問題解決のための根拠を示す必要があります。頸損解体新書にはその価値があります。

ただし、多くの反省点もありました。できる限りの実態を把握したいという思いが強く、アンケート作成の初期段階で、設問を膨大な数にしてしまいました。前回実態調査に携わった先輩頸髄損傷者から「手が不自由な頸髄損傷者が、この数の設間に答えるのに要する時間を考えろ！」とお叱りを受けました。それを受け、設問を少なくする過程では、専門家の皆さんとの研究に必要であった設問を大きく削ってしまい、多大なるご迷惑をおかけしました。専門家が本調査で得たデータや報告書の内容を活用して、研究や論文発表することは、問題解決への根拠を示すものとして頸髄損傷者の益になります。頸損解体新書は、障害者だけでは完成させることができません。課題解決に向けての選択肢を増やすためには、我々の問題とするものを客観視してくれる人たちが必要です。専門家との協働の必要性はそこにあります。今回はそれを痛感しました。

私が2010から2020の報告書作成に携わるまでの10年間で、生活様式は大きく変化しました。ただ、時代が変わっても解決せず残されている問題があります。その問題を根本的に解決する必要があります。

実態調査を行い、報告書にまとめることの継続を願っています。そして、2030の実態調査を行うならば、医療従事者、福祉関係者、研究者、教育者、エンジニア、メーカーといった多くの専門家に関わってもらってくれてください。それを頸髄損傷者が主体的に行っていくために、今から準備しておいてください。

そして、この事業に意欲的に関わるための教訓を残しておきます。私は、アンケート調査が始まる直前に急性肺炎で緊急入院をしました。何とか復帰して事業に携わることができましたが、今後に携わる頸髄損傷者の後輩たちに伝えたいのは、「健康第一」ということです。この事業は、大変な労力を要します。ただ、そこから得られた成果は、必ず我々の生活を良くしてくれます。まだ残された問題を解決すべく、今を楽しく生きて、10年後にパワーを発揮してください。

最後に、この調査を助成してくださった公益財団法人三菱財団様、協力してくださった専門家の皆様、支援者の皆様に深く感謝申し上げます。

全国頸髄損傷者連絡会総会・愛媛大会

会場・アクセス・ホテルのご紹介

事務局

2024年6月8日（土）・9日（日）に開催予定の「第51回全国頸髄損傷者連絡会総会・愛媛大会」に関する会場・アクセス・ホテル情報をご紹介します。参加を検討されている方は、ぜひ参考にしてください。

【会場】松山総合コミュニティセンター

住所：愛媛県松山市湊町7丁目5番地

URL：<https://www.cul-spo.or.jp/comcen/>

※地下に駐車場があります（有料）。

当日混雑・満車になる場合がありますので、

ご留意ください。

会場の近隣にパーキング（有料）があります。

こちらもご活用ください。



【会場までのアクセス】

◆松山空港から会場

伊予鉄バス：松山空港 → 伊予鉄道・松山市駅 → 徒歩 or バス → 会場

※松山空港から出ているリムジンバスに車椅子は乗車できません。

※松山市駅から会場まで、徒歩では10分、バスでは3分かかります。

◆JR松山駅から会場

伊予鉄バス：松山駅 →

→ コミュニティセンター前バス停 →

→ 会場（2分）

徒歩：約10分

◆伊予鉄道・松山市駅から会場

伊予鉄バス：松山市駅 →

→ コミュニティセンター前バス停 →

→ 会場（3分）

徒歩：約10分

【会場付近・近隣ホテル一覧】

①コンフォートホテル松山

<https://www.choice-hotels.jp/hotel/matsuyama/>

住所：松山市花園町3-18

会場までの距離：約800m

会場までの時間：徒歩 約12分

：車 約4分



◎仮押さえ

- ・ツインルーム：20部屋（大人2名）
- ・ユニバーサルルーム 2部屋（大人2名）

↑愛媛支部までお問い合わせください。

②ホテルマイステイズホテル松山

<https://www.mystays.com/hotel-mystays-matsuyama-ehime/>

住所：松山市大手町 1-10-10

会場までの距離：約 700m

会場までの時間：徒歩 約 10 分

：車 約 3 分



③レフ松山市駅 by ベッセルホテル

<https://www.vessel-hotel.jp/ref/matsuyama/>

住所：松山市湊町 5 丁目 2-2

会場までの距離：約 600m

会場までの時間：徒歩 約 9 分

：車 約 6 分



④四国・松山スカイホテル

<https://www.shikoku-sky.com/>

住所：松山市三番町 8 丁目 9-1

会場までの距離：約 600m

会場までの時間：徒歩 約 7 分

：車 約 2 分



※掲載している建物の写真は

全て WEB から引用しています。

【お問い合わせ】愛媛頸髄損傷者連絡会 事務局

〒799-0433 愛媛県四国中央市豊岡町豊田 336-2 山下方

電話 0896-25-1290 鈴木 太 (スズキフトシ)

オンラインランチミーティングを開催しています！

頸損の仲間と気軽に話す場です。参加してみませんか？

現在、全国頸髄損傷者連絡会では、オンライン（Web 会議ツール「Zoom」を使用）でランチミーティングを毎月第 2 土曜日 11:30～13:00 で開催しています。

○全国頸髄損傷者連絡会のホームページに開催の詳細情報が掲載されます。

○登録フォームからお申込みいただくと、当日参加するための URL が送られてきます。

詳しくは、全国頸髄損傷者連絡会ホームページをご覧ください。

<https://k-son.net/>

お問い合わせ：本部事務局 宮野 jaqoffice7@gmail.com

事務局からのお知らせ

全国頸髄損傷者連絡会事務局

○お知らせ（訃報）

2023年11月11日（土）、全国頸髄損傷者連絡会の会長を務められ、京都支部の会長も務めていただいた小森猛氏がご逝去されました。全国の頸髄損傷者をはじめ重度の障害がある仲間のために活動し、誰もが安心した生活が送れる社会を目指し制度の変革に邁進され、そして会の運営にも大変なご尽力をいただきました。故人の功績をたたえ、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

○秋の代表者会議開催報告

2023年9月3日（日）に全国代表者会議（秋）2023を岡山国際交流センターにおいてハイブリッドで開催しました。会場9名、オンライン12名が参加しての代表者会議となりました。

会議では、6月3～4日（土～日）に開催した全国総会・兵庫大会の実施報告がされました。台風の影響による大雨のため、公共交通機関が麻痺し、関東方面から来られる予定であった参加者が足止めされたトラブルがあり、我々の移動が公共交通機関に大きく依存していることを痛感し、自然災害などのトラブルに見舞われた時に、速やかに対応できる柔軟性が求められることを学んだ大会でした。トラブルはあったものの、初日のシンポジウムには151名が参加され、2日目は車椅子ユーザー25名と、支援者とボランティアを含めて79名で「姫路城登城ツアー」を実施するなど、大盛況の全国総会となったことが担当した兵庫支部から報告されました。兵庫大会の総会が2つの議案を残して終了したため、臨時総会を2023年7月23日（日）に開催し、決議できなかった議案が承認されたことも報告しました。その他にも、「65歳問題」をテーマとした学習会を、全国脊髄損傷者連合会と共に2023年11月25日に開催することや全国頸髄損傷者連絡会のメーリングリストを新設することが承認されました。また、頸損解体新書2020発行から2年が経過し、日本リハビリテーション工学協会との覚書では「3年は電磁的方法による公開はしない」と取り決めを交わしましたが、情報は常に新しいものを提供するべきだとの声も多いため、日本リハビリテーション工学協会の同意を得て、WEBでの公開を早めることにしました。日本リハビリテーション工学協会の理事会からも承認を得ていますので、近日中には当会ホームページで公開します。

次回全国代表者会議（春）2024は、2024年3月3日（日）に岡山国際交流センターにおいてハイブリッドでの開催が決定しています。

○全国脊髄損傷者連合会・省庁交渉報告

2023年10月2日（月）に参議院議員会館B104会議室において開催された公益社団法人全国脊髄損傷者連合会の令和5年度省庁交渉に、全国脊髄損傷者連合会からお声かけいただき、当会から会長・鴨治と事務局長・宮野が出席しました。当会も要望している「介護保険と障害福祉サービスの選択制」「通勤中と職場内の重度訪問介護サービスの活用」「通学中と学校内の重度訪問介護サービスの活用」「入院中の重度訪問介護の利用を区分4～区分5に拡大」「脊損や頸損を受け入れられる医療機関の確保」「在宅復帰プログラムを備えた病院とリハ施設の整備」「航空機に搭乗するときの電動車椅子のバッテリー確認の標準化」「航空機のバッテリー確認で航空会社と車椅子メーカーの連携強化」が要望書に入れられ提出されました。担当部局からの回答は、満足のいくものではなく、問題の認識に大きな差異を感じました。あきらめずに今後も継続して交渉していく必要があります。当会としては、会員の心豊かな生活の実現のために、関係機関への要望活動に積極的に取り組む所存です。

全国頸損連絡会＆関係団体“年間予定”

(2023年12月～2024年11月)

事務局

[2023]

12月2～3日（土～日）	第12回DPI障害者政策討論集会	(オンライン)
12月12～14日（火～木）	ニーズ・シーズマッチング交流会2023	
		(東京都立産業貿易センター浜松町館)
12月17日（日）	兵庫支部・忘年会	(神戸食堂 はあとす。)
12月17日（日）	障害者自立セミナー2023 「精神科の人権問題」	(大阪市・たかつガーデン)

[2024]

1月27日（土）	第7回災害リハビリテーション支援研修会	
		(大阪急性期・総合医療センター)
1月28日（日）	大阪支部・新年会	(長居障害者スポーツセンター)
2月（下旬予定）	車椅子使用者の航空機利用に関する勉強会	
		(神戸学院大学・神戸三宮サテライト(予定))
3月3日（日）	全国代表者会議（春）	(岡山県・岡山国際交流センター)
4月17～19日（水～金）	バリアフリー2024福祉機器展（大阪府・インテックス大阪）	
4月20日（土）	兵庫支部・支部総会	(神戸市中央区文化センター)
6月8～9日（土～日）	第51回全国頸髄損傷者連絡会総会・愛媛大会（愛媛県松山市）	
7月5～6日（金～土）	第21回ケアリフォームシステム研究会全国大会 in 兵庫	
		(兵庫県・加古川商工会議所1階展示ホール)
8月23～25日（金～日）	第38回リハ工学カンファレンス in 東海	
		(日本福祉大学東海キャンパス)
9月（上旬予定）	全国代表者会議（秋）	(場所未定)
10月2～4日（水～金）	第51回HCR国際福祉機器展	(東京ビッグサイト)
10月（上旬予定）	全国脊髄損傷者連合会2024年度省庁交渉	(場所未定)
10月（下旬予定）	4都県合同交流会	(場所未定)
11月10日（日）	四国頸損の集い2024	(愛媛県四国中央市)

※開催場所が決定していないイベントは、「場所未定」と記載しています。

※予定日時・場所は変更になる場合があります。対面開催からオンライン開催になる場合がございま
すのでご了承ください。

※全国機関誌『頸損』発行 4月・8月・12月（年3回）

※お問い合わせは該当各支部、本部事務局までお願ひいたします。

お役立ち！？

全国頸髄損傷者連絡会 鴨治 慎吾

皆さん、お店や歩道等で、ちょっとした段等に困ったり遠回りをしたことがありませんか？最近ではスロープもいろいろな種類のものが存在します。その中でも持ち運びが可能そうな物を集めてみました。これがあれば、車椅子を持ち上げたりしなくとも段差を超えることがスムーズにおこなえるのでは！

◎ダンスロープGO (S-50G3)

**ダンロップ
ホームプロタクツ**



長さ 47 cm

幅 82 cm

重さ 約2, 5 kg

3つ折り時 幅29 cm 厚さ6 cm

最大耐質量 300 kg

素材 ガラスFRP

メーカー希望小売価格（税込）54, 780円

★株式会社ダンロップホームプロダクト

TEL. 06-6120-7323 FAX. 06-6120-7327

平日 9:00~17:45

（ただし、土日祝日・夏季休暇・年末年始を除く）

〒541-0059 大阪市中央区博労町 4-6-10

<http://www.dhp-dunlop.co.jp/index.html>

お問い合わせはホームページ内のお問い合わせフォームよりお願いします。

◎パラレールII 50C

Famille

ふあみーゆツダコマ



軽量タイプ

長さ 50 cm

幅 Sサイズ 65, 5 cm

Mサイズ 70, 5 cm

Lサイズ 75, 5 cm

重さ 約1, 3 kg

耐荷重 300 kg/2本(150 kg/レール1本)

素材 カーボン

メーカー希望小売価格（税込）103, 400円

★ふあみーゆツダコマ株式会社(津田駒工業本社 敷地内)

TEL : 076-244-9101 FAX : 076-244-925

Eメール : para_rail@famille-t.co.jp

電話での受付時間：月～金 9:00～17:00 (平日)

購入に関するご相談、資料請求、デモ機の貸出し（貸出し期間は約2週間）など

他にも素材がアルミ合金のタイプもあります。

他にも様々なメーカーからいろいろな仕様があります。また、某オークションサイトでも販売されています。車やオートバイ用の簡易スロープ等を利用している方もいます。自分も、シクロケア社の簡易スロープを持ち歩いています。自分のニーズに合った物が見つかると良いですね！

報道・情報ピックアップ

OKH 岡山放送 10/11(水) 18:05 配信

障害者雇用に積極的な27社参加 岡山市で企業説明会【岡山】

障害者を対象にした企業説明会が10月11日、岡山市北区で開かれました。

障害者や保護者など約390人が参加し、岡山県内で障害者雇用を積極的に進める企業27社がブースを設けて自社の取り組みなどを説明しました。

県や岡山障害者雇用企業研究会「クリオ」などが毎年開いているもので2023年で5回目です。県によりますと、県内の障がい者で福祉施設から一般就労に移行した人の数はここ10年で4倍ほどに増えているということです。

(岡山障害者雇用企業研究会クリオ 櫻田満志会長)

「障害者が職場を選ぶ時、就職前の情報を得る場がなかなか無い。企業がどんな風に障害者を雇っているのか、どんな仕事をしているのか知ってもらい、自分に合う企業・職場を選んでもらいたい」

主催者は、ウェブでも情報を発信していくとしています。

共同通信 10/19(木) 7:36 配信

障害配慮「つなぐ窓口」、内閣府 差別解消へ

内閣府は、障害者差別の解消に向けた相談に応じる「つなぐ窓口」を16日に開設した。

車いす利用者向けスロープの設置や、筆談による対応といった「合理的配慮」が来年4月、企業など民間事業者に義務付けられるのを控え、円滑な施行を後押しする。障害のある人や企業から電話やメールで相談を受け付け、関係省庁や自治体に取り次ぐ。合理的配慮は既に国や自治体に義務付けられ、民間事業者には現在は努力義務とされている。

つなぐ窓口では「差別的な扱いを受けたのに相談先が分からない」「障害者から求められた配慮にどのように対応していいのか」などを受け付ける。

つなぐ窓口、電話（0120）262701。



eat 愛媛朝日テレビ 10/24(火) 17:16 配信

人手不足…JR伊予市駅無人化へ【愛媛】

駅員の人手不足などを理由に来年3月からJR予讃線の伊予市駅が無人駅となります。

JR四国は4県であわせて12駅を無人化すると23日に発表し、愛媛では伊予市駅が対象となりました。

伊予市駅では現在、窓口に1人の駅員を配置していますが経費削減や人手不足への対応のため2024年3月中旬以降、駅員の配置を取りやめるということです。

無人駅となっても四国内の普通乗車券や自由席特急券などは自動券売機で購入できるということですが、指定席券や四国外への乗車券は購入できなくなります。

JR四国の県内の無人駅は伊予市駅が加わると全体の8割を超える69駅となり、駅員が配置される駅は12駅となります。

支部ニュース

栃木頸髄損傷者連絡会

対面で交流する機会を持ちたいと思っていますが、なかなか実現できていません。栃木支部の活動を手伝ってくれる方を募集しています。

東京頸髄損傷者連絡会

イベント企画中、東京頸損で Zoom が使えるようになりました。勉強会・情報交換などの交流に使用していきたいと思います。是非、ご参加・ご協力の程、宜しくお願い致します。

愛知頸髄損傷者連絡会

10月22日に頸隨損傷者連絡会・岐阜との合同BBQを実施しました。他支部との開催で多くの情報交換ができ、交流の大切さを実感しました。12月には忘年会、2月と3月に学習会を予定しています。

頸髄損傷者連絡会・岐阜

今年度、数年ぶりに対面での懇親会を9月と10月に2回開催しました。年が明けてから来年度に向けての役員会を開催する予定です。

京都頸髄損傷者連絡会

10月28日に40周年記念式典を無事終えることができたのも束の間に、設立メンバーの小森猛氏が亡くなられて、メンバーで京都支部設立当初の思いを再認識して活動する決意を確認しました。

大阪頸髄損傷者連絡会

2024年1月27日に災害リハ研修会を対面とオンライン、翌28日に新年会を対面企画で準備中。2月か3月頃には学習会&交流会も企画予定しています。詳細はHPにて、辰年も頑張ろう！

兵庫頸髄損傷者連絡会

10月29日(日)に、座談会「パラスポーツ」にてボッチャを行いました。今後も、パラスポーツ競技もやりたいと考えています。12月17日(日)場所：神戸はあとす。で忘年会を行います。

香川頸髄損傷者連絡会

最近新会員さんが入会し10月のBBQで会員さん達とさまざまな情報交換が出来ました。1月に新年会を予定しております。

愛媛頸髄損傷者連絡会

11月12日には四国頸損の集いを開催しました。月末火曜のZoom交流会を中心に、県内映画館バリアフリー調査、全国総会準備を進めています。6月8・9日は愛媛県松山市でお待ちしています。

徳島頸髄損傷者連絡会

今年は5月7月と定期的に例会を開いています。次回は12月3日に開催予定です。今後も新年会やボッチャなどアイデアを出し合い、みなさんが楽しく参加し交流できる例会を続けていきます。

九州頸髄損傷者連絡会

12月 クリスマスイベント
1月 自立生活をしてみて講演会
2月 バレンタインイベント
3月 障がい体験会

支部ニュース

全国頸髄損傷者連絡会、各支部からの近況報告や今後の予定を告知していきます。

全国頸髄損傷者連絡会連絡先

(2023年11月現在)

全国頸髄損傷者連絡会・本部

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘1丁目1番地の1 フローラ 88 305B 特定非営利活動法人ぽしづる内

TEL 079-555-6022 e-mail:jaqoffice7@gmail.com <https://k-son.net/>

【郵便振替】口座番号:00110-0-62671 口座名義:全国頸髄損傷者連絡会

※ 各支部、地区窓口に連絡がつかない場合は本部にお問い合わせください。

※ 電話でのお問い合わせ等は、平日10時~17時の間にお願いいたします。

福島地区窓口 「福島頸損友の会」

〒961-8031 福島県西白河郡西郷村大字米字中山前146-1(相山方)

TEL 080-1656-1727 e-mail:hidamari.s@gmail.com <http://fukushima-keitomo.e-whs.net/>

栃木頸髄損傷者連絡会

〒320-8508 栃木県宇都宮市若草1丁目10番6号 とちぎ福祉プラザ内(2F)

TEL&FAX 028-623-0825 e-mail:keison@plum.plala.or.jp <http://www16.plala.or.jp/tochigi-keison/>

東京頸髄損傷者連絡会

〒177-0041 東京都練馬区石神井町7-1-2 伊藤マンション 205(鴨治方)

TEL 090-8567-5150 e-mail:tokyokeisonn@gmail.com <http://www.normanet.ne.jp/~tkyksn/index.html>

神奈川地区窓口

〒228-0828 神奈川県相模原市麻溝台696-1 ライム106号室(星野方)

TEL&FAX 042-777-5736 e-mail:h-futosi@wa2.so-net.ne.jp

静岡地区窓口

〒426-0016 静岡県藤枝市郡1-3-27 NPO法人障害者生活支援センターおのころ島気付

TEL 054-641-7001 FAX 054-641-7181 e-mail:matunosuke@cy.tnc.ne.jp

愛知頸髄損傷者連絡会

〒466-0035 愛知県名古屋市昭和区松風町2-28 ノーブル千賀1F AJU自立生活情報センター内

TEL 052-841-6677 FAX 052-841-6622 e-mail:kito@aju-cil.com

頸髄損傷者連絡会・岐阜

〒503-0006 岐阜県大垣市加賀野4-1-7 ソフトピアジャパン702 バーチャルメディア工房内

TEL&FAX 0584-77-0533 e-mail:kson_g@yahoo.co.jp <http://g-kson.net/>

京都頸髄損傷者連絡会

〒601-8441 京都府京都市南区西九条南田町4番地 九条住宅B棟313(村田方)

TEL 090-8886-9377 e-mail:keison@ev.moo.jp

大阪頸髄損傷者連絡会

〒534-0027 大阪府大阪市都島区中野町3-4-21 ベルエキップ・オグラン1階 自立生活センターあるる内

TEL&FAX 06-6355-0114 e-mail:info@okeison.com <http://okeison.com>

兵庫頸髄損傷者連絡会

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘1丁目1番地の1 フローラ 88 305B 特定非営利活動法人ぽしづる内

TEL 079-555-6229 FAX 079-553-6401 e-mail:hkeison@yahoo.co.jp <http://hkeison.net/>

香川頸髄損傷者連絡会

〒768-0104 香川県三豊市山本町神田1223(長谷川方)

TEL 0875-63-3281 e-mail:tsu-chan.h@shirt.ocn.ne.jp

愛媛頸髄損傷者連絡会

〒799-0433 愛媛県四国中央市豊岡町豊田336-2(山下方)

TEL 0896-25-1290 e-mail:ehimekeison@gmail.com

徳島頸髄損傷者連絡会

〒779-1402 徳島県阿南市桑野町岡ノ鼻28番地(江川方)

TEL 0884-21-1604 e-mail:awakeisons@gmail.com

九州頸髄損傷者連絡会

〒874-0919 大分県別府市石垣東3丁目3番16号 別府J1階 NPO法人自立支援センターおおいた内

TEL 0977-27-5508 FAX 0977-24-4924 e-mail:kkr@jp700.com



【東京支部より】東京頸損でも春のお花見等でよく利用した國民公園新宿御苑。元々は徳川家の家臣の大名屋敷がルーツらしいです。のちに皇居庭園となり、その後、國民公園となる。園内にはお茶屋などがあり抹茶を楽しめるようです。新宿駅南口からも徒歩10分。温室など様々な施設があります。まさに都会のオアシスではないでしょうか。

國民公園とは皇居外苑・京都御苑・新宿御苑だそうです。

編集部通信

●頸損者に役立つ情報、編集企画、また機関誌へのご意見を募集しております

編集部連絡先（担当：宮野） E-mail : h-miyano@st.rim.or.jp

全国頸損連絡会・本部事務局 E-mail : jagoffice7@gmail.com

TEL : 079-555-6022

●当会では、善意の活動支援寄付もお願いしております

郵便振替口座番号：00110-0-62671 口座名義：全国頸髄損傷者連絡会

■機関誌広告募集 年3回発行（4月・8月・12月）

機関誌「頸損」は、全国頸損会員（約500名）及び関係する方々に購読していただいている。

当会では、広告掲載して活動支援をしていただける、福祉・医療機器業者の方を募集しております。

当会HP <http://k-son.net/> をご参照いただき、是非、広告掲載をご検討いただけたら幸いです。

[広告掲載要綱]

◎料金：1ページ・2万円／半ページ・1万円（※ 1年以上継続契約の場合は半額割引）

◎問い合わせは上記の編集部連絡先、または本部事務局までお願ひいたします。

編集後記

8月の暑い中、イベント参加のため久々に大阪へ行った。イベントが終わり、昔東京にいた知人と会って、少し食事をした。そして、以前、機関誌（138号）でも紹介した宿泊先「WADACHI」に泊まった。駅からもアクセスがよく、コンビニや海遊館（水族館）も近くにある。何より、宿泊先で、リクライニング付きのベッドであることに加え、お風呂に入れる幸せさがあった。新大阪からも約30分で行ける。いわゆるホテルのユニバーサルルームだと、部屋が少し広いだけで、浴室に車椅子に行けるくらいで実際には湯船に入ることが難しい事が多い。「WADACHI」のような宿泊先がもっと世の中に多くあれば私たちも容易に外泊ができるのであろう。

(S·K)

昭和四十六年八月七日第二種郵便物認可（毎月六回一・六の日発行）
二〇二三年十一月十七日発行 SSKA頸損 増刊通巻第一一六四号

編集人

東京都練馬区石神井町
七一一二一〇五
全国頸髄損傷者連絡会

発行人

東京都世田谷区祖師谷三十一十七
ヴエルドウーラ祖師谷一〇二号室
障害者団体定期刊行物協会

全国頸髄損傷者連絡会

〒669-1546

兵庫県三田市弥生が丘1丁目1番地の1

フローラ 88 305B 特定非営利活動法人ぼしぶる内

TEL : 079-555-6022 Email : jaqoffice7@gmail.com

価額 250 円

無断転載・複製を禁じます